

---

# 大学生と読書

## —大学1年生の読書体験記—

### University Students and Reading: First-year Reading Experience Essay

吉田 昭子

Akiko Yoshida

---

#### 要旨

日本人の読書離れが指摘され、特に大学生の読書離れが繰り返し論議されている。大学生の読書はどのような状況にあるのだろうか。大学生は実際にどのような作品や著者を好み、読んでいるのか。学生が読書好きや読書嫌いになるきっかけとは、果たしてどのようなものか。本研究では既存の読書調査類を比較して大学生の読書状況を概観するとともに、文化学園大学の授業の中で大学1年生が執筆した読書体験記に基づいて、その読書傾向や状況に関する考察を行った。

読書体験記から見ると、幼少期における読書環境の状況にかかわらず、受講者は成長につれて本と接する機会が減少している。しかし、読書離れや不読は、読書嫌いを意味するわけではなく、読書体験を振り返る中で多くの受講者がどちらかと言えば、読書好きであると述べている。受講生は一貫して読書好き、読書嫌いな場合と、中高校生の時期に読書好きから読書嫌いへ、読書嫌いから読書好きへと変化している場合がみられることが明らかになった。変化のきっかけや理由として、「本との出会い」、「読書環境の設定」、「人との出会い」の3つの場合が見られることが確認された。

●キーワード：大学生／読書体験／読書離れ

#### I はじめに

日本人の読書離れが指摘され、繰り返し論議されている。2014年9月15日付『毎日新聞』朝刊の社説では、「読書の秋、若者よ、本を開こう」<sup>1)</sup>と題して、若者の読書離れを取り上げている。読書は知識を蓄え、感覚を磨き、考える力を養うだけでなく、視野を広げ想像力を鍛える。書物をもつその効用を見直し、特に若者が本に向かうように呼びかけたいとしている。

出版界の不況で2013年は売り上げがピークだった1996年の3分の2に減った。特に雑誌の不況が出版社の広告収入の減少を引き起こし、街の書店の売上不振や書店数の減少にも影響したとしている。しかし、公共図書館の館外貸出数や平均読書量をみると、日本人全体が読書離れしているわけではないとも指摘している。

日本図書館協会の統計によれば、全国の公共図書館数は2012年度に3200館以上、館外個人貸し出し数は7億1000万点以上に達している。この数値を10年前と比べると図書館数は400館以上、貸し出し冊数は1億数千万点増加している。また、毎日新聞と全国学校図書館協議会が合同で実施している学校読書調査結果によると、こ

の10年間の平均読書量は微増傾向にあり、不読率（その年の5月に本を読まなかった人の割合）も減少したと述べている。しかし、それにくらべて大学生の読書離れの実態は深刻であるとしている。

全国大学生生活協同組合連合会2013年調査によれば、「まったく本を読まない」という学生が40.5%に達し、2004年以降で初めて4割を超えたとしている。小・中学校で学校での読書指導（朝の斉読書など）<sup>2)</sup>が効果を上げているものの、高校、大学と進むにつれて、ゲームやネット通信、受験勉強、アルバイトなどで、読書がおろそかにされ、高校や大学での読書指導も不十分なのではないか。この傾向は20歳代以降にもつながっていると思われる。教育機関や社会、家庭を挙げ、若者たちが大いに読書に親しむ工夫を考える必要があると述べている。

本稿では大学生の読書、読書離れの状況について、読書体験記と関連づけて取り上げる。まず、第II章で大学生の読書離れの推移について概観する。次に第III章では本学現代文化学部の国際文化・観光学科で実施しているスタディスキルズで取り組んだ読書体験記について考察する。第IV章では読書体験記に見られる「読書好き」と

「読書嫌い」について述べる。

## II 大学生の読書離れ

### 2.1 大学生の読書状況

大学生の読書離れという言葉が言われるようになって久しい。金沢大学生協同組合が2014年10月から11月に実施した学生生活実態調査（727部配付、回収率63.7%）では、電子書籍を含む1日の平均読書時間がゼロ分と回答した学生は49.7%、学部別で文系学部は46.4%、理系学部は59.7%、読書時間ゼロが半数以上を占めている<sup>3)</sup>。

同調査で「読書をする」と回答した学生の平均読書時間は56.4分で、前回調査より13.6分増加したとある。また、読書に含める本の種類（複数回答）をたずねた質問では、「趣味や関心のための書籍」が93.8%、「教科書や参考書」が25.2%、「趣味・情報雑誌」が22.4%、「漫画本」が14.9%、「漫画雑誌」が6.8%となっている。

この金沢大学の調査結果は全国大学生協同組合連合会の調査と比べると、読書時間ゼロが占める割合が増加している。また、読書時間ゼロとは、漫画本を含めたさまざまな種類の本を全く読まなかった学生も含まれていると考えられる。

大学生の読書生活の実態、読書意欲や読書についての意見に関する調査は、本間康平、古野有隣により、1964年に東京都内に所在する国、公、私立の大学及び短期大学生1000人を対象として実施されている（回収率67.2%<sup>4)</sup>）。この調査では、1ヶ月間に1冊でも書籍を読んだものは89%、雑誌を1冊でも読んだものが63%、週刊誌を1冊でも読んだものは72%であり、総体的にみれば1ヶ月間に本も雑誌も週刊誌も1冊も読まなかった学生はほとんどいないとしている。

よく読まれた本としてはベストセラー（『愛と死をみつめて』、『徳川家康』など）、近代文学の古典（『赤と黒』、『若きヴェルテルの悩み』など）、大学生の教養書（『ケインズ』、『大量消費時代』など）となっている。また、よく読まれた雑誌としては男子学生では『文芸春秋』、『中央公論』、『世界』などの総合誌、専門誌としては『法学セミナー』、女子学生では『婦人公論』が第1位をしめ、次いで『文芸春秋』、このほかに女性向けの雑誌（『装苑』、『栄養と料理』など）が上位をしめている。週刊誌は『朝日ジャーナル』、『週刊新潮』があげられている。

今からおよそ50年前に行われたこの調査では、大学

生の読書の中心は書籍であり、1ヶ月に読んだ図書の平均は3冊となっている。4年制大学の学生について、書籍の読書量は1冊も読まなかった学生が11%であり、1冊読んだと回答した学生15%とあわせると26%になっている。学年別にみると1年生、2年生では読書量に大きな変化がなく、学年が上がるにしたがって減少する。4年生になると1ヶ月に1冊も読まなかった学生（15%）と1冊読んだ学生（17%）をあわせて32%に達している。

堀薫夫は、2000年に実施された「大学生の読書と電子メディア利用に関する調査研究」により、1ヶ月に1冊も読まなかった割合は26.4%、1冊と回答した割合22.4%であったとしている<sup>5)</sup>。この調査で1冊以下の読書量の大学生は48.4%となっている。別調査ではあるが、既にとりあげた1964年に実施された本間、古野の調査と比較すると、1冊以下の読書量であった学生の割合が増加していることがわかる。

平山祐一郎は、2006年（5大学1184人を対象）と2012年（11大学2169人を対象）に読書調査を実施して比較を行っている。この調査での不読者は2006年には33.6%、2012年には40.1%となり、不読率の推移からみると、大学生は年々読書離れの傾向にあると指摘している<sup>6)</sup>。2006年と2012年の調査と比べると、1週間の読書日数、1日の読書時間、5月の読書冊数が減少している。テレビの視聴が減少し、携帯電話やパソコンの使用が増加している。今後の読書調査ではこうした電子書籍の利用に関する工夫や配慮も必要であろうとしている。

電子メディアの利用について、「大学生の読書と電子メディア利用に関する調査研究」の中で、堀は読書に促進的なメディアは、新聞や雑誌、インターネットのように、音声がともなわずに情報摂取がなされるメディアであり、逆に読書行動に阻害的なメディアとは、音声がともなう会話の要素が強いメディアであるとしている。メディアの特性という点では、読書とインターネットは共通した特性があり、読書行動への規定力という点では、他の多くのメディアとは逆に、インターネット利用は促進的な方向を向いていると指摘している<sup>5)</sup>。

また、2006年には6大学（立命館大学、国立大学1校、私立大学4校）の各1000名の大学生を対象とした読書実態調査（736名、回収率12.53%）も実施されている<sup>7)</sup>。佐藤由紀、近森節子、酒井克彦は、すべての層が読書をしていないのではなく、本を意識的に読む、楽しんでいる層が存在し、読書をしていない層も「読書」自体には

肯定的で、同世代や他のメディアとの関わりでの「話題の本」には興味を持っているとしている。

あまり読書をしないと自認している層も読書行為自体には教養などのためにも必要だと肯定的にとらえているとしている。同世代の読んでいるものや他のメディアをきっかけに読書はしてみたいが、「時間、ゆとりがない」と感じている。一定の多読層は存在しており、購入だけではなく図書館などの利用により読書をしている様子が伺えるとしている。

## 2.2 読書離れと図書館利用

読書時間ゼロの学生の増加という状況を受けて、各大学の学内図書館では、学生が本と出合うきっかけを作ろうという企画や学習スペースの工夫が行われている。お薦め本や学習スペースの工夫、イベントの開催、テーマに沿った関連本の展示なども企画され、それによって貸出冊数を維持しているという指摘もある<sup>8)</sup>。

日本図書館協会の大学図書館統計によると、短期大学や高等専門学校を含めた大学図書館数は2004年が1,643館、2009年と2014年が1,674館であり、2014年と2004年を比較すると10年間に31館増加している。学生の個人貸出点数は、2004年2,471万点、2009年2,541万点、2014年2,559万点である。統計上からみると、確かに個人貸出の点数は微増傾向にあり、大きな変化は見られない<sup>9)</sup>。

本学現代文化学部で筆者が授業を担当した2014年度、2015年度の大学1年生(93名)に対して、図書館の利用経験についてたずねた。ほとんどの学生が大学図書館や公共図書館などを利用した経験はあると回答している。しかし、利用頻度については、「ほとんど利用しない」という回答が57名(61.3%)を占め、「月1回」が15名(16.1%)、「週1回」が11名(11.8%)、「月2回」が9名(9.7%)、週5回という回答も1名(1.1%)みられた。

また、どんな時に図書館を利用するかについては、調べものをする必要があるとき、試験勉強をするとき、課題を出されたときが多く見られた。この他に、空き時間のあるときに図書や雑誌を読むため、小説を読むため、静かな環境で読書したいときなどがあげられた。

つまり、学生が図書館を訪れる時は、課題や試験勉強などのために調べものや資料が必要になる等の具体的な目的が生じた時、図書館で過ごせる時間を見出すことができた時、読書をするのできる環境がほしい時などに分かれる。

## 2.3 読書離れ対策の必要性

『大学生の読書状況に関する教育心理学的考察』<sup>10)</sup>の中で、平山は大学生の読書動機を「娯楽休養読書動機」、「練磨形成読書動機」、「言語技能読書動機」、「影響触発読書動機」の4つに分けている。さらに、大学生の時間利用の観点から読書タイプの類型化を行い、「本格的読書タイプ」(すき間時間でもゆとり時間でも読書する)、「消費的読書タイプ」(ちょっとした時間に読書する)、「稀少的読書タイプ」(すき間時間にもゆとり時間にも読書しない)、「趣味的読書タイプ」(長いひまな時間に読書を楽しむ)、「中間的読書タイプ」の5つに分けている。

そして、読書離れについてみると、本格的読書タイプは読書離れの懸念が低く、稀少的読書タイプは既に読書離れを起こしていると分析している。大学での読書教育の手始めとしては、消費的タイプや趣味的タイプ、中間的読書タイプに対する読書指導を進める必要があるとしている。

平山は大学生と読書について研究するにあたっての困難な点として、読書調査が不読者調査になりつつあること、読者の類型化ができないこと、読書について「突っ込んだ」質問項目を実施することができないこと、読書するという行為が過渡期にあり変容していること、読書の意味が本質的に認識されなくなっていること、読書との対比物(新聞、テレビ、インターネット、携帯電話等)が急速に変容していることをあげている。そして、これからは、読書調査ではなく読書指導(支援)が必要であるとしている<sup>11)</sup>。

平山の指摘には、読書調査から読書指導(支援)へとという大学生の読書離れ対策を考える上で、重要な方向性の示唆が含まれている。今、大学生をめぐる社会環境は大きく変容し、各個人の読書環境の差異は広がりつつある。これから具体的な読書離れ対策として求められるのは、従来のように集団を対象とした読書実態調査の実施ではない。各学生の読書環境に関する個別のよりきめ細かな実態の把握が必要であると考えられる。

読書は知的活動の基礎であり、大学生活を実りあるものにするには、その第一歩としての読書に力を入れる必要がある。大学生において学力の土台として読書習慣を高めるために介入を行うことの必要性が注目され、実際にいくつかの大学において、大学関連組織での取り組みが行われている。協働型の試験的読書プログラムを作成し、図書館利用やビブリオバトル形式によるプレゼンテーションや、ディスカッション等の手法を取り入れた

プログラムの導入を積極的に行っているところもある<sup>12)</sup>。

本学現代文化学部国際文化・観光学科1年生のスタディスキルの授業においても、国際文化・観光学科で学ぶ際に求められる姿勢やスキルを習得することをねらいとした授業を実施している。図書館の使い方、参考図書やインターネットの使い方、スピーチやプレゼンテーション、文献講読等を中心とした授業を展開している。

このスタディスキルの授業計画の中では、大学生の読書習慣の形成の必要性に注目し、読書体験記の執筆を取り上げている。受講者は、大学1年生として自分の読書体験を振り返り読書体験記を執筆する。各自が、これまでどのような本を読んだか、読書や書店、図書館に関する思い出を綴った体験記を書いている。そこで、次に第三章で本学現代文化学部国際文化観光学科のスタディスキルズで実施している読書体験記の取り組みを取り上げる。

### Ⅲ 読書体験記

#### 3.1 文化学園大学での試み

##### 3.1.1 スタディスキルズにおける位置づけ

本稿では筆者がスタディスキルズを担当した期間(2013年から2015年)の3年間に実施した読書体験記について取り上げる。本学現代文化学部国際文化・観光学科1年生のスタディスキルズの授業(必修)では、前期(全15回)の授業の中で、大学での学習に必要なスキルである図書館の使い方、資料・文献調査の方法、文献講読の基礎技術、口頭表現の方法等を取り上げている。授業の目標は、高校までとは違う大学での学び方、図書館の働きと種類、OPACやインターネットの使い方、文献資料の検索方法を理解して身につけることができること、学術的な基礎文献を読み、その内容を理解した上で、他者にわかるように説明することができることを目指している。

この授業内容の1つとして読書体験記の執筆に取り組んでいる。読書体験記の作成は、大学生になってまもなくの4月から5月の期間に実施している。受講者に、これまでの図書館の利用経験についてたずねると、幼少期には利用したが、中学生、高校生になって地元の公共図書館を利用する機会は少ないと回答する学生が多い。

大学生になってから、大学周辺の公共図書館を積極的に利用している学生は少ない。そこで、授業の中では、大学図書館の利用方法を学ぶとともに、東京の特色ある図書館や大学周辺の公共図書館を紹介し、さまざまな種

類の図書館の利用促進を図っている。

##### 3.1.2 読書体験記作成の準備

読書体験記の課題は、大学1年生になるまでに読んだ本、感銘を受けた本はどのような本か、書店や図書館に関する思い出について、2000字程度の文章にまとめることである。なお、ここでは「読書」とは「本」を読むこと、DVDやビデオなどの媒体を除いた紙媒体に定着された情報を読む、すなわち漫画を読むことも含めて、読書と定義している。

受講者は読書体験記を書くための各自のメモを作成する。読書に対する自分のイメージやどのように考えているかを整理する。受講者には、執筆した体験記は文集としてまとめ、教員や他の学生に公開することについて、あらかじめ説明を行った。

読書体験記を執筆する前に、まずどんな体験記を書くか、そのアウトラインを考える。各自が事前にこれまでの読書経験を振り返って、印象に残っていること、面白かったこと、良かったこと、いやだったこと、驚いたこと、不思議に思ったことなどを項目としてあげてみる。自分なりにイメージをふくらませて、体験記として書く順序、章立を決めてから文章を書き始める。下書きを作成し、読み手に文意が伝わりやすい文章の作成を心がけること、説明順序の変更や説明の補足等、よりわかりやすい文章にするための推敲を行うというレポート作成と同じプロセスをとった。

読書体験記を執筆した段階で、受講者に振り返って感想をたずねた。読書体験記を書くことで、自分なりに体験を振り返り、今後の自分の読書のあり方を見なおし、改善点を考えるきっかけになったという感想がみられた。その一方で、読書が嫌いなので、読書体験記を書くことも苦労したという感想もあった。

##### 3.1.3 文集の作成

受講者が作成した文章は、『読書体験記』として1冊の文集にまとめた。配付対象は執筆した1年次の学生と国際文化・観光学科関係の教員である。編集にあたって、体験記にどのような作品が取り上げられているのかが、わかりやすいように、文集の索引(書名や著者名)を作成した。また、受講者が作成した体験記には関連する著者や著書について紹介するコラムを添えた。著者の読み、生没年や代表作品に関する人名辞典等に基づく情報のほかに作品に関連したインターネットサイトの情報

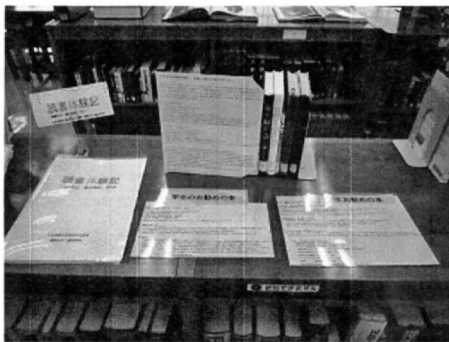


等を加えた。

たとえば、『チョコレート工場の秘密』<sup>13)</sup>の場合は、著者のロアルド・ダールについて、人名辞典類の情報から原綴 Roald Dahl と生没年 1916-1990 だけではなく、代表作として『あなたに似た人』<sup>14)</sup> や『キスキス』<sup>15)</sup> があること、数多くのベストセラー児童文学、戯曲、長編小説を執筆していることを補足した。2005 年に映画化されていること、監督のティム・バートンについて関連する情報を添えた。さらに、雑誌に掲載された『チャーリーとチョコレート工場』についての研究論文<sup>16)</sup>を紹介し、文集の読者が著者や作品に関する理解を深められるような工夫を行った。

### 3.1.4 読書体験記の関連コーナーの設置

文化学園大学小平図書館のスタッフの協力を得て、2013 年度に作成した読書体験記関係図書類のコーナーを設置し、文集とともに図書を展示した。2014 年度のスタディスキルズの受講者が事前に図書館で 2013 年度の読書体験記がとりあげている作品を手にとることができるようにした (第 1 図)。



第 1 図 読書体験記関連図書コーナー

## 3.2 読書体験記執筆の先行事例

### 3.2.1 高校生を対象とした読書体験記

公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会の主催により、毎年高校生を対象とした全国高校生読書体験記コンクールが実施されている。各学校で校内予選を実施し、5 編以内の作品を選び、各都道府県の応募先に提出する。さらに各都道府県の選考委員会で都道府県入選者 5 編が選ばれ、その中の 1 編が優秀賞となり、中央選考委員会で、文部科学大臣賞などの中央入賞作品 8 編が決定される。

「全国高校生読書体験記コンクール」は、1981 年に各地方紙の協力を得て募集が開始された。原稿枚数は、400 字詰め縦書き原稿用紙 5 枚 (2000 字以内) とし、単

なる感想文ではなく、読書することで始まった自分の内面や実生活の変化、読後に起きた変化についての体験を書くという内容である。

取り上げる作品は文学作品に限定せず、どのようなジャンルも対象としている。多くの高校生がたくさんの本と出会うきっかけを作ることを目的として実施され、第 34 回 (2014 年度) の応募総数は 402 校 114,822 編に達している。第 18 回以後のコンクール中央入賞者の作品や選評は一ツ橋文芸教育振興会のウェブページに掲載されている<sup>17)</sup>。

### 3.2.2 大学生の読書体験記

大学生の読書体験記としては、松尾昇治による『読書の楽しみを求めて』(2007 年度版)<sup>18)</sup> 及び『読書の楽しみと図書館:私の心に残る読書』(2008 年度版~2014 年度版)<sup>19)-25)</sup> の取り組みをあげることができる。実践女子大学短期大学部図書館学課程に入学してまもなくの司書課程受講生が書いた「読書と図書館」をテーマとした読書体験記をまとめた文集である。

このほかに、2004 年度から 2007 年度の取り組みとしては、松尾による和光大学司書課程 (司書・司書教諭) の「読書と豊かな人間性」の授業における、学生の子どもの読書体験をまとめた『読書の楽しみを求めて』<sup>26)-29)</sup> の教育実践がある。これらの大学生を対象とした読書体験記は、いずれも図書館に関心を持ち、司書資格を取得するために、授業を履修している学生のレポートである。司書課程の学生を対象としたこの実践は、既に 10 年におよぶ蓄積を持っている。レポートの内容を読むと、各自が図書館、家庭、地域、友人等の異なる環境の中で、読書体験や図書館利用経験を積み重ねていく様子が自分なりの視点で綴られている。

### 3.3 読書体験記で取り上げられた著者

本学のスタディスキルズの受講者は、3 年間で合計 50 名である。それぞれの内訳は 2013 年度 (10 名)、2014 年度 (12 名)、2015 年度 (28 名) である。大学生の読書体験記の先行事例としてあげた実践女子大学短期部や和光大学の場合は、司書課程の科目受講者を対象とした読書体験記である。しかし、本研究の対象者は、特に図書館に興味を持ち、資格の取得を希望している学生ではない。大学 1 年生の必修であるために、特に読書や図書館に興味を持っているわけではない。

今回の読書体験記では、1 件の体験記の中で取り上げ

る図書や作家の制限を設定しなかった。したがって、1名の受講者が複数の作品や著者を対象として取り上げている場合が多く、取り上げられた著者は117人に及んだ。第1表は、受講者の2人以上が選んだ著者を取り上げた人数の降順に配列した表である。比率は受講者50名中の割合を示している。最も多くの受講者がとりあげたのが、有川浩であり、ローリングがつづく。有川浩は1972年生まれ的女性小説家、ライトノベル作家であり、2004年に『塩の街』<sup>30)</sup>でデビューし、『図書館戦争』<sup>31)</sup>などで知られる。2011年には雑誌『グヴィンチ』1月号で好きな恋愛小説ランキングで第1位<sup>32)</sup>を獲得している人気作家である。

ローリングの『ハリーポッター』シリーズは、1997年から2007年まで出版され、73カ国で翻訳されて世界的なベストセラーとなった。2001年から映画化が行われて、世界中で大ヒットを記録している。この『ハリーポッター』<sup>33)</sup>がヒットした時期は、2013年から2015年の時期に大学生1年生になった受講生たちが、小学生から中学生を迎えた時期にあたる。したがって、映画を観たことがきっかけになって、これらの作家の作品に興味を持ち、他の作品も読み始めたという思い出を語っている受講者が多く見られた。

第II章の2.1で取り上げた大学生の読書生活の実態の中でも、よく読まれている本としてベストセラーが取り上げられているように、読書体験記でも、ベストセラー『図書館戦争』の著者の有川浩や『ハリー・ポッター』

の著者ローリングが上位を占めている。近代文学の古典としては、芥川龍之介や森鷗外、夏目漱石の名が含まれている。

中学、高等学校時代に読書経験をほとんど持たない学生が体験記を書くにあたって、印象に残った作品として、芥川龍之介や森鷗外をあげている。複数の学生がこれらの作家を取り上げている理由として、教科書に掲載されていたことを挙げている。つまり、読書量が少ない、あるいは、ほとんどないとしている学生にとって、教科書に取り上げられている作品が与える影響がいかに大きいかを示している。

### 3.4 読書体験記で取り上げられた作品

第2表は読書体験記で取り上げられた作品の書名、著者と人数を示した表である。受講者1名が読書体験記に取り上げる作品を1作品に制限していないため、合計は170タイトルとなった。第1表には受講者2名以上の作家を挙げたが、ここでは受講者1名が取り上げた作品も表中に示した。受講者が同世代であるにもかかわらず、取り上げられた作品が幅広いことを示すためである。

読書体験記に取り上げる作品は、大学1年生までに読んだ作品を対象としたため、一般対象が7割、児童を対象とした図書が3割程度となった。第2表の分類欄には各作品の内容を日本十進分類法(NDC)で示した。文学(9門)が130タイトル(76.5%)、日本文学の小説(913)は87タイトル(51.2%)、英米文学の小説(933)が21タイトル(12.4%)、漫画11タイトル(6.5%)、絵本10タイトル(5.9%)であった。

第1表 読書体験記でとりあげられた著者

順位	著者	受講者数	比率 (%)
1	有川浩	6	12
2	ローリング,J.K	5	10
3	芥川龍之介	3	6
	朝井リョウ	3	6
	オズボーン, メアリー ホープ	3	6
	湊かなえ	3	6
	森絵都	3	6
	山田悠介	3	6
	9	ガネット, ルース・スタイルス	2
グリム		2	4
シェイクスピア		2	4
ダール, ロアルド		2	4
ダレン シャン		2	4
なかがわりえこ		2	4
夏目漱石		2	4
原ゆたか		2	4
三浦しをん		2	4
森鷗外		2	4
ロッダ, エミリー		2	4

第2表 読書体験記で取り上げられた作品

順位	書名	著者	人数	比率 %	分類 NDC
1	ハリー・ポッターと賢者の石	ローリング,J.K	4	8	933
2	桐島, 部活やめるってよ	朝井リョウ	3	6	913
3	ハリーポッターと秘密の部屋	ローリング,J.K	3	6	933
	マジックツリーハウス	オズボーン, メアリー ホープ	3	6	933
	夜行観覧車	湊かなえ	3	6	913
	羅生門	芥川龍之介	3	6	913
7	エルマーの冒険	ガネット, ルース・スタイルス	2	4	933
	かいけつゾロリシリーズ	原ゆたか	2	4	913
	カラフル	森絵都	2	4	913
	ぐりとぐら	なかがわりえこ	2	4	絵本
	心	夏目漱石	2	4	913

順位	書名	著者	人数	比率 %	分類 NDC
7	ダレン・シャン	ダレンシャン	2	4	933
	チョコレート工場の秘密	ダール, ロアルド	2	4	933
	デルトラクエスト	ロツダ, エミリー	2	4	933
	図書館戦争	有川浩	2	4	913
	ハリーポッターとアズカバンの囚人	ローリング, J.K	2	4	933
	阪急電車	有川浩	2	4	913
	舞姫	森鷗外	2	4	913
19	1973年のピンボール	村上春樹	1	2	913
	1リットルの涙	木藤亜也	1	2	915
	20代のうちに知っておきたいお金のルール38 Freedom from Money	千田琢哉	1	2	159
	アーモンド入り, チョコレートワルツ	森絵都	1	2	913
	赤い繭 (『安部公房全集』)	安部公房	1	2	913
	赤毛のアン	モンゴメリー, L.M	1	2	933
	赤ずきん	グリム/ペロー	1	2	943
	Another	綾辻行人	1	2	913
	アフターダーク	村上春樹	1	2	913
	いちばん星のドレス	あんびるやすこ	1	2	913
	イニシエーション・ラブ	乾くるみ	1	2	913
	インディゴの夜	加藤実秋	1	2	913
	ウォーリーをさがせ	ハンドフォード, マーティン	1	2	絵本
	海辺のカフカ	村上春樹	1	2	913
	永遠の0	百田尚樹	1	2	913
	往復書簡	湊かなえ	1	2	913
	オール1の落ちこぼれ, 教師になる	宮本延春	1	2	374
	おかえし	村山桂子	1	2	絵本
	御伽婢子	浅井了意	1	2	913
	乙女なげやり	三浦しをん	1	2	914
	親指さがし	山田悠介	1	2	913
	陰陽師	夢枕獏	1	2	913
	格闘する者に○	三浦しをん	1	2	913
	風が強く吹いている	三浦しをん	1	2	913
	風の歌を聴け	村上春樹	1	2	913
	河童が覗いたヨーロッパ	妹尾河童	1	2	915
	悲傷逆流成河 (悲しみは逆流して河になる)	郭敬明	1	2	923
	神去なあなあ日常	三浦しをん	1	2	913
	神去なあなあ夜話	三浦しをん	1	2	913
	菊と刀: 日本文化の型	ベネディクト, ルーズ	1	2	382
	機上の奇人たち	エリオット・ヘスター	1	2	687
	ギャグマンガ日和	小林浩子 訳	1	2	漫画
	きよしこ	重松清	1	2	913
	桐島, 部活やめるってよ	朝井リョウ	1	2	913
	キリン	山田悠介	1	2	913
	クビキリサイクル	西尾維新	1	2	913
	クルヨクルヨ	荒井良二	1	2	絵本
	月魚	三浦しをん	1	2	913
	源氏物語	紫式部	1	2	913
	県庁おもてなし課	有川浩	1	2	913
	恋空: 切ナイ恋物語	美嘉	1	2	913

順位	書名	著者	人数	比率 %	分類 NDC
19	鋼鉄はいかに鍛えられたか	オストロフスキー	1	2	983
	ごくせん	森本梢子	1	2	漫画
	告白	湊かなえ	1	2	913
	古事記		1	2	213
	国境の南, 太陽の西	村上春樹	1	2	913
	こまったさんシリーズ	寺村輝夫	1	2	913
	采配	落合博満	1	2	783
	砂漠	伊坂幸太郎	1	2	913
	色彩の息子	山田詠美	1	2	913
	七人の武器屋	大楽絢太	1	2	913
	自分を愛する力	乙武洋匡	1	2	289
	ジャイアント・ジャム・サンド	ロード, ジョンヴァーノン	1	2	絵本
	習慣の力	デュヒッグ, チャールズ	1	2	159
	春琴抄	谷崎潤一郎	1	2	913
	少女	湊かなえ	1	2	913
	しをんのしおり	三浦しをん	1	2	914
	人生はZOO っと楽しい! ー毎日がとことん楽しくなる65の方法ー	水野敬也・長沼直樹	1	2	159
	シンデレラ	ペロー, シャルル	1	2	953
	シンデレラ姫	グリム	1	2	943
	心霊探偵八雲	神永学	1	2	913
	スースーとネルネル	荒井良二	1	2	絵本
	スプートニクの恋人	村上春樹	1	2	913
	精霊の守り人	上橋菜穂子	1	2	913
	セーラムーン	武内直子	1	2	漫画
	世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド	村上春樹	1	2	913
	世界文学の名言	ベルトン, クリストファ	1	2	937
	戦後のその精神風景 (新現代文教科書所収)	谷川俊太郎	1	2	914
	剪灯新話	瞿佑著	1	2	923
	その時までサヨナラ	山田悠介	1	2	913
	空の上で本当にあった心温まる物語	三枝理枝子	1	2	687
	退出ゲーム	初野晴	1	2	913
	断舎離	やましたひでこ	1	2	597
	ダンス・ダンス・ダンス	村上春樹	1	2	913
	チア男子	朝井リョウ	1	2	913
	沈黙	遠藤周作	1	2	913
	ツナグ	辻村深月	1	2	913
	ティファニーで朝食を	カーポティ, トルーマン著 村上春樹訳	1	2	933
	天国旅行	三浦しをん	1	2	913
	天使がくれたもの	Chaco	1	2	913
	読書力	斎藤孝	1	2	019
	友よ	赤川次郎	1	2	913
ドラえもん	藤子・F・不二雄	1	2	漫画	
ドラゴンボール	鳥山明	1	2	漫画	
TRICK	森誠人	1	2	913	
トワイライト 上・下	メイヤー, ステファニー	1	2	933	
なぞなぞのすきな女の子	松岡享子	1	2	913	

順位	書名	著者	人数	比率 %	分類 NDC
19	ナポレオン：英雄か独裁者か	上垣豊	1	2	289
	ナルト	岸本斉史	1	2	漫画
	ナルニア国物語	ルイス,C.S.	1	2	933
	人間の誕生	ゴーリキー	1	2	983
	ネイビー・シールズ最強の狙撃手	カイル,クリス	1	2	289
	ねじまき鳥クロニクル	村上春樹	1	2	913
	眠りの森の美女	ペロー,シャルル	1	2	953
	野村ノート	野村克也	1	2	783
	ノルウェイの森	村上春樹	1	2	913
	ノンタンシリーズ	おおともやすおみ	1	2	絵本
	パーラ	イーザウ,ラルフ	1	2	943
	贖罪	湊かなえ	1	2	913
	博士の愛した数式	小川洋子	1	2	913
	はじめての人のダンス・レッスン	竹村孝	1	2	799
	走れメロス	太宰治	1	2	913
	はだしのゲン	中沢啓治	1	2	漫画
	鼻	芥川龍之介	1	2	913
	離さない(『神様』所収)	川上弘美	1	2	913
	花の鎖	湊かなえ	1	2	913
	花より男子	竹内志麻子	1	2	913
	バムとケロシリーズ	島田ゆか	1	2	絵本
	ハムレット	ウィリアム・シェイクスピア作	1	2	933
	ハリーポッター	ローリング,J.K	1	2	933
	ハリーポッターと死の秘宝	ローリング,J.K	1	2	933
	ハリーポッターと謎のプリンス	ローリング,J.K	1	2	933
	ハリーポッターと不死鳥の騎士	ローリング,J.K	1	2	933
	ハリーポッターと炎のゴブレット	ローリング,J.K	1	2	933
	ハンガーゲーム	スーザン・コリンズ	1	2	933
	バンク侍斬られて候	町田康	1	2	913
	ヴァンパイア・ダイアリーズ	スミス,L.J	1	2	933
	陽だまりの彼女	越谷オサム	1	2	913
	羊をめぐる冒険	村上春樹	1	2	913
	氷菓	米澤穂信	1	2	913
	ブッタとシッタカブタ2 そのまんまでいいよ	小泉吉宏	1	2	159
	舟を編む	三浦しをん	1	2	913
	夜不語詭秘檔案(夜不語の秘密アーカイブズ)	夜不語	1	2	923
	ブラックジャック	手塚治虫	1	2	漫画
	フリーター、家を買う。	有川浩	1	2	913
	僕たちと駐在さんの700日戦争	ママチャリ	1	2	913
	ぼくは勉強ができない	山田詠美	1	2	913
	星新一ショートショート	星新一	1	2	913
	星の王子さま	サンテグジュペリ	1	2	953
	坊っちゃん	夏目漱石	1	2	913
	マッチ売りの少女(『アンデルセン童話名作集』)	アンデルセン,ハンス・クリスチャン	1	2	949

順位	書名	著者	人数	比率 %	分類 NDC
19	まほろ駅前多田便利軒	三浦しをん	1	2	913
	まほろ駅前番外地	三浦しをん	1	2	913
	マルガリータ	村木嵐	1	2	913
	ミッケ	マルゾーロ,ジーン	1	2	絵本
	ミラクルバナナ	キャストラ, ジョルジュ	1	2	絵本
	名探偵コナン	青山剛昌	1	2	漫画
	萌えカレ	池山田剛	1	2	漫画
	模倣犯	宮部みゆき	1	2	913
	桃色トワイライト	三浦しをん	1	2	914
	夢のような幸福	三浦しをん	1	2	914
	浴簾後	林満秋	1	2	923
	夜は短し歩けよ乙女	森見登美彦	1	2	913
	ライヴ	山田悠介	1	2	913
	リア王	シェイクスピア	1	2	933
	リアル鬼ごっこ	山田悠介	1	2	913
	檸檬	梶井基次郎	1	2	913
	獵命師傳奇	九把刀	1	2	923
	ロッキンホースバレリーナ	大槻ケンヂ	1	2	913
	나의라임렌지나무(私のライムオレンジの木)	ヴァスコンセロス, ジョゼ・マウロ・デ	1	2	969
	わたしはマララ:教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女	ユスフザイ, マララ	1	2	289
	ONE PIECE	尾田栄一郎	1	2	969

読書体験記に取り上げられた作品は、多様である。長い期間にわたって読まれてきた『エルマーのぼうけん』<sup>34)</sup>、『ぐりとぐら』<sup>35)</sup>、などの児童書や文学だけではなく、『ドラえもん』<sup>36)</sup>、『ドラゴンボール』<sup>37)</sup>などの漫画、人生訓(159)に関する本もみられる。また、大学受験に際して、自分の進路を決めるきっかけになった図書も取り上げられている。『空の上で本当にあった心温まる物語』や『機上の奇人たち』は、航空関係者が記した飛行機の中で実際に起こった出来事を綴った図書である。

韓国や中国からの留学生もこの授業を履修しているため、韓国でロングセラーになり、よく知られているヴァスコンセロス著『Pé de Laranja Lima』(韓国語の翻訳書名は『私のライムオレンジの木』)などもみられる。日本では『わんぱく天使』として翻訳されたことがあるが、韓国で知られているほど有名な図書ではない。また、文学書だけでなく実用書も取り上げられている。日本でも話題になった『断捨離』は2014年12月に中国で大ブームになり興味を持った図書として挙げられている。

#### IV 読書体験記と読書離れ

##### 4.1 読書体験記にみる「読書好き」と「読書嫌い」

読書体験記には、各受講者が自分の読書、図書館や書



店等との関わりについて振り返って述べている。したがって、現状のみではなく、受講者の読書体験の変化、体験上の「読書好き」と「読書嫌い」の経過をたどることができる。読書体験記の記述を基に、受講者が自分のことを「読書好き」と思っているか、「読書嫌い」と思っているかに分けた結果が第3表である。

「どちらでもない」は読書好きでも嫌いでもない。普段から読書をする機会がなく、読書をしたとは思わないと述べている例である。なお、読書体験記の文面には「どちらかと言えば嫌い」、「あまり好きではない」、「どちらかと言えば好き」等の中間的な表現が多くみられるが、これらは「好き」、「嫌い」に分類して集計した。

第3表 読書好きと読書嫌い

項目	どちらでもない	嫌い	好き→嫌い	好き	嫌い→好き	好き→嫌い→好き	合計
人数	1	4	0	14	21	10	50
現状	1	嫌い	4	好き		45	50

第3表の項目のうち、矢印で示した「好き→嫌い」は、幼少期は好きだったが、ある時期から嫌いになったとしている場合、「好き→嫌い→好き」は、嫌いになった時期があったが、あるきっかけから再び読書が好きになったと述べている場合である。一貫して変化しない人数は、「嫌い」4名(8%)、「好き」14名(28%)で、約4割を占めている。残りの6割は、子どもの頃から状況が変化している場合である。

#### 4.2 一貫した「読書好き」と「読書嫌い」

既に述べたように、読書離れが進み、不読者が増加していることが繰り返し指摘されている。第3表の読書好きと嫌いの現状を見ると、45名(90%)が、自分自身をどちらかという「読書好き」であると考えている。これは、読書から離れること、本を読まないことと読書の好き嫌いとは関連しているように見えるが、実は別のことであることを示している。

読書体験記の中で一貫して「読書好き」と書いている受講者(14名)の体験には、どのような共通点がみられるのだろうか。7名が幼少期に親に絵本を読み聞かせてもらった経験から、本に親しみを持つようになり自分でも読むようになったと述べている。また、2名が家族と共に見た映画の原作に興味を持ったきっかけになり、

読書好きになったとしている。幼少期の家庭での読書環境の違いが、その後の読書との関わりに与える影響が大きいことがわかる。

また、読書体験記の中で、4名が一貫して読書は嫌いであるとしている。各自の状況については、小さい頃から強制的な読書が嫌いだったこと、戸外で遊ぶことが好きで読書には興味がなく、教科書以外の本は全く読まなかったとしている。そして、学校の授業の中でどうしても読まなければならなかった場合以外に読書はせず、小学校以後は推奨される本も減り、本を読む量も次第に減少していったと回想している。

#### 4.3 「読書好き」から「読書嫌い」への変化

10名の受講者が、幼少期は「読書好き」だったが、「読書嫌い」になり、その後再び「読書好き」になったとしている。「読書嫌い」になった経過については、次のような理由がみられる。5名が、朝の読書時間(10から15分間程度)に図書を読まなければならなかったことを挙げている。次に、3名が絵本は好きで読んでいたが、文字の多い本を読むようになって「読書嫌い」になったとしている。

朝の読書時間については、一定時間を一緒に読書をする時間として強制されることに対する抵抗感があり、時間を過ごすことが憂鬱だったという回想がみられる。小さい頃は母親によく本を読んでもらった経験があるが、成長するにつれて本を読まなくなった。さらに、中高生になってからは、朝の読書時間があり、あまり好きではない本を読まなければならず、読むことが嫌いになっていったという場合もある。

幼少期に家庭で読み聞かせをしてもらった思い出から、絵本を見るのは好きだったが、文字の多い本に移行する際に、好きだった読書が苦痛になったという例も見られる。小学校の頃は、絵本などの児童書を読んでいて、中学生になると厚みのある本ばかりになり、1ページの文字数も増え、本に対する関心が薄れて次第に本を読まなくなっていった。絵や文字の少ない漫画を読むことが多くなり、文字の多い本を読む機会は減っていったとしている。こうした絵を中心とした本から文字の多い本へと移行し、読む対象の本の厚みが物理的に増加していく段階で、読書が苦手になっていったという感想は多く見られる。

また、周囲からの助言が、本人にとっては強制や介入として受け止められ、場合によっては読書嫌いになる要

因になっている。幼児期に絵本に対する興味や良いイメージを持っていても、絵本から文字の多い本へと移行することができずに読書嫌いが発生していることがわかる。

#### 4.4 「読書嫌い」から「読書好き」への変化

「読書嫌い」から「読書好き」になった21名と「読書好き」から「読書嫌い」になり、再び「読書好き」になった10名について、読書好きに転じたきっかけや理由を示したのが、第4表である。

第4表 「読書好き」に変わった理由やきっかけ

読書好きに変わった理由やきっかけ	人数
1冊の本との出会い	11
TVドラマ、映画で見た作品への興味	7
朝の読書時間に読書をしたこと	5
漫画から文字の多い小説に対する関心の変化	2
友人のすすめ	2
ベストセラー本を読んだこと	1
図書室での友人との交流や情報共有	1
担任の先生との出会い	1
自分の気持ちの切り替え	1

「読書好き」に変わったきっかけとしては、「本との出会い」、朝の読書時間や図書室にみられる「読書環境の設定」、「人との出会い」をあげることができる。

「本との出会い」としては、1冊の本との出会いが11名と最も多く、次にテレビドラマや映画で取り上げられた作品の原作に対する興味を挙げている例が7名となっている。映像を見たあとで原作を読み、その内容と比較し、原作との違いや原作の魅力に気づいたという意見も多い。映画化されることで、作品の各場面が分かりやすく表現され、さらに音も加わるために、観るものの記憶に鮮明に残る場合もある。

しかし、本を読んだ時の感動が、映画で観た時には感じることができなかった。映画と原作では内容が異なり、映画を観ただけでは原作の内容を理解していないことに気づき、原作を読んでから、映画を観て比較して自分なりに評価するようになったという体験もみられた。読書することで、自分なりに想像力を膨らませることができることに気づいて、改めて読書の楽しさを発見したという意見もある。

小さい頃から、自ら進んで本を読んだ経験はなかったが、高校時代に友人と図書室で本を読んだり話したりす

る機会が増えた。図書室の先生がリクエストを受入れてくれたため、友人が進めてくれた本を読んだり、良い仲間、良い先生との出会い、良い本との出会い、その時々でのコミュニケーションが自分の読書に対するイメージを大きく変えたという意見もある。

「自分の気持ちの切り替え」というのは、自分が読みたい本を読むと考えるようになってから状況が変わったと述べている例である。小さい頃から家族や周囲の期待やこのような本を読んだほうが良いというアドバイスに対して反発する気持ちが強かったため、意識的に読書から距離を置いていた。しかし、自分の読みたいものを読むと考え方を変えたことで、つまり、気持ちの持ちようでも本を読むことが楽しくなったという意見も見られる。

読書に対する助言や支援のあり方が、本人にとっては過剰な期待や負担と受け止められてしまう場合があること、家族や友人や教師との交流がその後の読書への取り組み方に与える影響が大きいことを示している。

#### 4.5 「読書好き」や「読書嫌い」に変化する時期

「読書嫌い」から「読書好き」、「読書好き」が「読書嫌い」になって「読書好き」に変化する時期はいつごろなのだろうか。読書体験記の中で「読書嫌い」から「読書好き」になったと述べている21名のうちで、15名が変化の時期について触れており、小学生時代3名、中学生時代6名、高校生時代6名となっている。

「読書好き」から「読書嫌い」になり、再び「読書好き」になったと述べている受講者10名では、9名が変化の時期についてふれている。「読書嫌い」になった時期は中学生時代であり、「読書好き」になったのは高校生時代であると述べている。このことは、中学生時代が読書の好き嫌いを左右する重要な分岐点になることを示している。さらに、一度嫌いになっても、きっかけさえあれば、再び読書好きに変化していく可能性が充分残されていることも示している。

#### IV おわりに

本稿では、大学生の読書に関する既存調査類から大学生の読書離れについて概観した。そして、本学の大学1年生の読書体験記の記述から具体的に大学生の読書状況について実態に即して分析を行った。読書体験記の内容から、読まれている著者や作品、「読書好き」が「読書嫌い」、「読書嫌い」が「読書好き」に変化するきっかけや理由について考察した。

その結果、「読書好き」から「読書嫌い」へ、「読書嫌い」から「読書好き」へと変化する時期は、中学生や高校生の時期であることが判明した。「読書嫌い」が「読書好き」に変化するきっかけや理由としては「本との出会い」、「読書環境の設定」、「人との出会い」の3つの場合が見られる。

読書が大嫌いだった学生が、読書が大好きになったきっかけは、放課後の学校図書室での図書室の先生や友人との交流、図書館や書店での1冊の本との出会いであり、それが読書に対するイメージを大きく変えたという。読書を楽しむ場、読書の楽しみを共有できる環境の整備の重要性を示している。

また、多くの学校で実施されている朝の読書時間については、読書が習慣になり読書好きになる場合と、決められた時間をうまく活用できずに、読書が以前よりも苦手になる場合の両方の場合が見られた。時間が限定され、本の一部分しか読むことができない。ストーリーが楽しくなってきたところで、時間切れで本を読むことを止めなければならず、次第に本を読むことが嫌いになったという指摘もある。読書の楽しみとの出会いを設定すること、読書指導の難しさを示している。

読書体験記の中で、幼少期に家族と書店や図書館に行き本を選んだ経験を持ち、家庭で本を読んでもらったという思い出を語っている学生は多い。一方、家庭では読書環境には恵まれず、その後も自分から進んで本を読みたいとは思わなかったと振り返っている学生もいる。しかし、幼少期の読書環境に関わらず、成長するにつれて本と接する機会が減少する、すなわち読書離れが進む傾向は、既存の実態調査結果と共通している。

受講生の読書体験記の内容を分析して興味深いことは、読書体験を振り返る中で、読書嫌いになった経験を持つ学生も含めた9割が、現状では自分は読書がどちらかと言えば好きであると考えていることである。これは、読書離れが、すなわち「読書嫌い」を意味しているわけでないこと、一度「読書嫌い」になった場合でも再び「読書好き」に変わる可能性が、その後も存在していることを示している。

大学生の読書離れと言われるようになって久しく、この言葉を聴いても大きな驚きを感じなくなりつつある。読書離れや不読という読書における行動様式の変化に対してどのような対応をするのか。今求められているのは、応急措置ではなく、読書離れを防ぐための解決策である。各学生の実態把握とその読書環境に合わせた読書

支援の具体的実践である。

大学1年生の授業の中で、読書体験記を取り上げることで、学生が読書体験を振り返り、自分の読書のあり方をとらえ直し、改善点を見出すためのきっかけを設定することができた。読書支援の観点から見ると、学生自らが見出した改善点が、その後どのように日常の読書生活に生かされたのかを、継続的に調査し明らかにする必要がある。また、各学生の読書環境に合わせ、より細かな読書支援を具体的かつ継続的に展開するためには、さらなる工夫が必要となる。この点については引き続き検討を続けるとともに、今後の課題としたい。

#### 注・引用文献

- 1) “社説読書の秋、若者よ、本を開こう”毎日新聞、2014年9月15日朝刊。
- 2) 朝の読書のあゆみ <http://www.tohan.jp/csr/asadoku/ayumi.html> (2015-9-20参照)。  
朝の読書活動は、学校で毎朝、ホームルームや授業の始まる前の10分間、生徒と教師がそれぞれに、自分の読みたい本を読む活動として、1988年に千葉県高校教師（林公、大塚笑子）の提唱で始められた。
- 3) “金大生「本読まない」53% 生協アンケート「漫画本も読書」15%”読売新聞、2015年3月18日朝刊。
- 4) 本間康平、古野有隣、大学生と読書：実態調査の分析から。読書科学、1965 vol. 9, no2, p. 1-12。
- 5) 堀薫夫、大学生の読書と電子メディア利用に関する調査研究：読書とインターネットの親近性。大阪教育大学紀要第IV部門、2001, vol. 50, no. 1, p. 147-156。
- 6) 平山祐一郎、大学生の読書の変化：2006年調査と2012年調査の比較より。読書科学、2015, vol. 56, no. 2, p. 55-64。
- 7) 佐藤由紀、近森節子、酒井克彦、大学生の読書実態と生協組織を通じた学生主体の読書推進運動の構築。大学行政研究、2007, no. 2, p. 61-73。
- 8) “くらしナビ・学ぶ：@大学、情報発信基地をめざせ、学内図書館、本との出会い作りに工夫”毎日新聞、2014年12月30日朝刊。
- 9) 日本図書館協会、日本の図書館統計。大学図書館。 <http://www.jla.or.jp/library/statistics/tabid/94/Default.aspx> (2015-9-20参照)。
- 10) 平山祐一郎、大学生の読書状況に関する教育心理学的考察。野間教育研究所、2008, 226p。
- 11) 平山祐一郎、大学生の読書について考える。私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会、2011。  
[http://jaspul.org/pre/e-kenkyu/kenshukai/2011\\_30.pdf](http://jaspul.org/pre/e-kenkyu/kenshukai/2011_30.pdf) (2015-9-20参照)。
- 12) 高木悠哉ほか、大学教育への導入に読書を用いることの有効性に関する試験的検討。環太平洋大学研究紀要、vol. 5, p. 69-77。  
<http://repository.ipu-japan.ac.jp/metadata/91> (2015-9-20参照)。
- 13) ダール、ロアルド、チョコレート工場の秘密。評論社、1972, 238p。

- 14) ダール, ロアルド. あなたに似た人. 早川書房, 1987, 443p. (ハヤカワ・ミステリ文庫, 22-1).
- 15) ダール, ロアルド. キスキス. 早川書房, 1984, 304p. (異色作家短篇集).
- 16) 安藤聡. ロアルド・ダール『チャーリーとチョコレート工場』: <賢明な受動性>と創造力. 言語と文化. 2008, no. 18, pp. 37-46.
- 17) 一ツ橋文芸教育振興会. 第34回「全国高校生読書体験記コンクール」入賞者発表.  
<http://www.hitotsubashi-bks.jp/dokusho/2015/index.html> (2015-9-20参照).
- 18) 実践女子大学短期大学部図書館学課程編. 読書の楽しみを求めて: 私の心に残る児童図書. 2007年度. 実践女子大学短期大学部図書館学課程, 2007, 53p.
- 19) 実践女子大学短期大学部図書館学課程編. 読書の楽しみと図書館: 私の心に残る読書. 2008年度. 実践女子大学短期大学部図書館学課程, 2008, 73p.
- 20) 実践女子大学短期大学部図書館学課程編. 読書の楽しみと図書館: 私の心に残る読書. 2009年度. 実践女子大学短期大学部図書館学課程, 2009, 85p.
- 21) 実践女子大学短期大学部図書館学課程編. 読書の楽しみと図書館: 私の心に残る読書. 2010年度. 実践女子大学短期大学部図書館学課程, 2010, 64p.
- 22) 実践女子大学短期大学部図書館学課程編. 読書の楽しみと図書館: 私の心に残る読書. 2011年度. 実践女子大学短期大学部図書館学課程, 2011, 64p.
- 23) 実践女子大学短期大学部図書館学課程編. 読書の楽しみと図書館: 私の心に残る読書. 2012年度. 実践女子大学短期大学部図書館学課程, 2012, 59p.
- 24) 実践女子大学短期大学部図書館学課程編. 読書の楽しみと図書館: 私の心に残る読書. 2013年度. 実践女子大学短期大学部図書館学課程, 2013, 91p.
- 25) 実践女子大学短期大学部図書館学課程編. 読書の楽しみと図書館: 私の心に残る読書. 2014年度. 実践女子大学短期大学部図書館学課程, 2014, 65p.
- 26) 松尾昇治, 和光大学資格課程「読書と豊かな人間性」編. 読書の楽しみを求めて: 私の心に残る児童図書. 2004-2005年版. 松尾昇治, 2005, 56p.
- 27) 松尾昇治, 和光大学資格課程「読書と豊かな人間性」編. 読書の楽しみを求めて: 私の心に残る児童図書. 2005-2006年版. 松尾昇治, 2006, 73p.
- 28) 松尾昇治, 和光大学資格課程「読書と豊かな人間性」編. 読書の楽しみを求めて: 私の心に残る児童図書. 2006-2007年版. 松尾昇治, 2007, 77p.
- 29) 松尾昇治, 和光大学資格課程「読書と豊かな人間性」編. 読書の楽しみを求めて: 私の心に残る児童図書. 2007年版. 松尾昇治, 2008, 64p.
- 30) 有川浩. 塩の街. メディアワークス, 2004, 305p.
- 31) 有川浩. 図書館戦争. メディアワークス, 2006, 345p.
- 32) ダ・ヴィンチニュース. 2011恋愛小説ランキング 1位は有川浩『県庁おもてなし課』.  
<http://ddnavi.com/news/31190/a/> (2015-9-20参照).
- 33) ローリング, J. K. ハリーポッターと賢者の石. 静山社, 1999, 462p.
- 34) ガネット, ルース・スタイルス. エルマーのぼうけん. 福音館書店, 1963, 116p.
- 35) なかがわりえこ. ぐりとぐら. 福音館書店, 1967, 27p. (こどものとも傑作集, 21)
- 36) 藤子不二雄. ドラえもん. 第1巻. 小学館, 1979, 190p. (てんとう虫コミックス).
- 37) 鳥山明. ドラゴンボール. 第1巻. 集英社, 1992, 175p. (ジャンプ・コミックス).